

令和 6 年 度

事業 報 告 書

目 次

社会福祉法人 狛江福祉会	1 ページ
特別養護老人ホーム こまえ苑	10 ページ
高齢者デイサービスセンター こまえ苑 ..	20 ページ
地域包括支援センター こまえ苑	27 ページ
居宅介護支援事業所 こまえ苑	35 ページ
【参考資料】決算の推移.....	37 ページ

社会福祉法人 狛江福祉会



こまえ苑

1. 総括

(はじめに)

令和6年度は、令和3年度介護報酬改定に掲げられた令和5年度までの経過措置の終了に伴い義務化された、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）等の感染症対策の強化、高齢者虐待防止を推進するため委員会の設置、研修の実施、感染症や災害が発生した場合でも、必要な介護サービスを継続する体制を構築する観点から改正した業務継続計画に基づいた研修・訓練の実施などに取り組みしました。

生産性向上への取組としては、令和5年度の通所サービス課に続き東京都の補助事業を活用し、施設サービス課においてコンサルタントを入れたプロジェクトチームを立ち上げ、介護現場での課題を抽出し、ワークフローを見直すなど業務改善を図ることができました。また、他法人との人事交流では、係長・主査職を派遣し職員の意識改革にも繋がりました。

職員の働き方については、感染症拡大防止対策で導入した在宅勤務制度を場所にとらわれない働き方として運用を拡大し、職員の働き方改革を一步前進させることができました。また、ハラスメントのない誰もが働きやすい職場を目指し、令和6年4月に介護現場でのカスタマーハラスメント対策を加えたハラスメント防止指針を策定しました。

こまえ苑を知っていただく取組としては、新型コロナ禍でしばらく地域の方に施設を見ていただく機会がなかったことから、施設見学会・昼食会を開催しました。

感染症については、新型コロナ、インフルエンザ、急性胃腸炎による感染が特養で発生しましたが、保健所から助言をいただき他のフロア、他部署に感染を広げないように努めてまいりました。なお、多摩府中保健所からは、これまでの感染対策・対応を評価していただき、高齢者施設の感染対策の好事例集にこまえ苑での取組が紹介されました。

施設の改修及び整備については、開設当初から使用できず懸案であった3階浴室を公益財団法人JKAの補助金を活用し機械浴槽を入れ必要な改修を行い、感染症が発生している間のフロア移動による感染リスクを解消することができました。このほか、中央エレベーターの改修を行いました。

各事業の稼働率などについては、特養（ショートステイ含む。）は96.3%（前年度比+0.8ポイント）となり、感染症の発生によりショートステイの利用者が減少することがありましたが、令和6年度からショートステイ2床減少、特養2床増床により特養全体への影響は少なくなりました。

デイサービスについては、通所介護は世田谷区の一部地域の新規登録者の増などもあり83.2%（前年度比+7.6ポイント）となり、通常規模デイサービスのひと月あたりの延べ人数は、上限の750人に迫るものになりました。

ホームヘルプ事業については、年間98件の新規依頼を受け、身体介護は目標値の4,800時間/年を大幅に超える約5,100時間（前年度比+380時間）となりました。

地域包括支援センター事業については、相談件数は9,237件（前年度比△265件）と前年度同様9千件を超え、予防プラン作成は2,548件（前年度比+118件）となりました。また、狛江市からの新規委託事業である高齢者の保健事業と介護事業の一体的な実施事業を開始しました。

居宅介護支援事業については、令和6年10月に介護支援専門員を1人増員したことにより、月平均担当件数26.7件（前年度比△6件）と目標の33件を下回りましたが、介護プラン作成件数は前年度に続き年間2,200件を超えることができました。

介護人財の確保については、今後の介護職員の退職、年齢構成を踏まえ令和7年度の採用に向けて特定技能外国人の受入準備を進め令和7年6月に3人採用できる見込みです。令和6年度で終期を迎える中長期計画については、これまでの事業の評価を行い、新たに令和7年度から6年間の第2期中長期計画を策定しました。これまで30年の経験を活かし持続化可能な法人運営、法人理念である「喜ばれ・選ばれ・信頼される施設」を常に念頭におき、地域福祉の増進に寄与してまいります。

2. 理事会・評議員会の開催状況

理事会・評議員会の開催年月日、議題等は次のとおり。

開催年月日		議 題 ・ 報 告 事 項 等
第一回 理事会	令和6年 6月3日	(1) 報告事項 報告第1号 令和5年度苦情解決第三者委員取扱いの苦情について 同第2号 訪問介護事業所に係る福祉サービス第三者評価受審結果について (2) 議 案 議案第1号 令和5年度事業報告について 同第2号 令和5年度財務報告について 同第3号 社会福祉法人狛江福祉会定時評議員会の招集事項の決定について 同第4号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑給与規程の一部改正について 同第5号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑再雇用就業規則の一部改正について 同第6号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑組織規程の一部改正について 同第7号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑経理規程の一部改正について 同第8号 指定介護老人福祉施設・指定短期入所生活介護事業所「こまえ苑」運営規程の一部改正について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第一回 評議員会	令和6年 6月24日	(1) 報告事項 報告第1号 令和5年度事業報告について (2) 議 案 議案第1号 令和5年度財務報告について (3) 協議事項 ① 次回評議員会の開催日程について (4) その他
第二回 理事会	令和6年 10月24日	(1) 報告事項 報告第3号 各事業上半期利用状況について (2) 議 案 なし (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第三回 理事会	令和7年 1月30日	(1) 報告事項 報告第4号 監事監査の結果について (2) 議 案 議案第9号 令和7年度の主要な業務契約について 同第10号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑給与規程の一部改正について 同第11号 指定介護老人福祉施設・指定短期入所生活介護事業

		所「こまえ苑」運営規程の一部改正について 同第12号 指定通所介護事業所、指定認知症対応型通所介護事業所、狛江市介護予防・日常生活支援総合事業（国基準及び市基準通所型サービス）「こまえ苑」運営規程の一部改正について 同第13号 令和6年度補正予算（第1号）について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他
第四回 理事会	令和7年 3月27日	(1) 報告事項 なし (2) 議案 議案第14号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑就業規則の一部改正について 同第15号 社会福祉法人狛江福祉会こまえ苑育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 同第16号 令和6年度補正予算（第2号）について 同第17号 令和7年度事業計画について 同第18号 令和7年度予算について (3) 協議事項 ① 次回理事会の開催日程について (4) その他

3. 共通部門

(1) 職員の配置状況

令和7年3月31日現在

施設 職 種	特別養護 老人ホーム	高齢者デイ サービスセンター	包括支援課	居宅介護 支援事業所	計
施設長	1				1
事務局長	1				1
事務員	1 (1)	(1)	(1)		1 (3)
生活相談員	1 (1)	2 3(兼務再掲)	1		4 (1) 3(兼務再掲)
介護職員	26 (16)	9 (10)			35 (26)
保健師			1		1
看護職員	4 (2)	1 (3)	2		7 (5)
管理栄養士	1				1
主任介護支援専門員			1	2	3
介護支援専門員	(1) (兼務再掲)		(3)	2 (3)	2 (6)
社会福祉士			1		1
精神保健福祉士			1		1
機能訓練指導員	1				1
サービス提供責任者		3 (2)			3 (2)
ヘルパー		(24)			(24)

運 転 手	(1)	(6)			(7)
医 師	(3)				(3)
居 室 整 備	(2)				(2)
調 理 員	委 託				
計	36 (26)	15 (46)	7 (4)	4 (3)	62 (79)

注：() 内は非正規職員の別掲。

(2) 職員数の推移

(年度末現在 単位：人)

年度	特別養護 老人ホーム	高齢者デイ サービスセンター	包括支援課	居宅介護 支援事業所	計
令和6年度	36 (26)	15 (46)	7 (4)	4 (3)	62 (79)
令和5年度	36 (26)	13 (44)	6 (4)	4 (2)	59 (76)
令和4年度	36 (25)	13 (43)	7 (3)	4 (2)	60 (73)
令和3年度	37 (25)	16 (37)	6 (4)	5 (1)	64 (67)
令和2年度	40 (24)	14 (37)	4 (3)	5 (1)	63 (65)

注：() 内は非正規職員の別掲

(3) 正規職員採用・退職状況

<特別養護老人ホーム>

採 用

職 種	年 月 日	令和6年	令和6年	計	摘 要
		4/1	10/1		
介護職員		2		2	
看護職員		1	1	2	

退 職

職 種	年 月 日	令和6年	計	摘 要
		6/30		
介護職員		1	1	自己都合

<高齢者デイサービスセンター>

採 用

職 種	年 月 日	令和6年	計	摘 要
		4/1		
サービス提供者責任者		1	1	

退 職 該当なし

<地域包括支援センター・居宅介護支援事業所>

採 用 該当なし

採 用

職 種	年 月 日	令和6年	計	摘 要
		10/1		
介護支援専門員		1	1	

退 職 該当なし

(4) 職員研修実施状況

1) 施設外研修

①東京都及び関係機関主催

名 称 等	開催日程	人数
認定調査員新規研修	4月～9月	1
東京都認知症介護実践リーダー研修	5月～10月	1
東京都認知症介護実践者研修	6月～8月	2
東京都認知症対応型サービス事業管理者研修	7月～8月	1
初めての社会福祉を学ぶ福祉職員のためのスタートアップ研修	7月	2
福祉職員キャリアパス対応生涯研修（初任者研修）	8月	2
認知症地域支援推進員研修	8月	1
東京都地域包括支援センター職員研修現任者研修（管理監督向け研修）	10月	1
権利擁護テーマ別実践研修	11月	1
東京都介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修	12月～3月	3
東京都介護支援専門員実務研修	12月～3月	2
通いの場から行きつけの場へ	1月	1

②東京都社会福祉協議会関係機関主催

名 称 等	開催日程	人数
特別養護老人ホーム経営実態調査フォローアップ研修	12月	1
認知症ケアについて考える明日から実践できる認知症ケア	12月	1

③各種研修会等

名 称 等	開催日程	人数
成年後見制度基礎研修	4月～8月	1
swing給与計算システム 定額減税対応他	5月	1
自衛消防訓練講習会	5月	1
区市町村介護予防事業担当者向け研修 総論編	6月～7月	1
道路運送法に基づく許可・登録不要の運送に関する新ガイドライン	6月	1
アレルギー・アナフィラキシー対応講習会	7月	1
東京都主任介護支援専門員専門研修	9月～3月	1
長寿社会開発センター研究セミナー	9月	1
第Ⅰ期東京都主任介護支援専門員更新研修	9月～12月	1
東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	9月～12月	2
患者（利用者）の意向を尊重した意思決定のためのACP育みびと研修会	10月～12月	1
区市町村介護予防事業担当者向け研修 実践編Ⅱ	10月～12月	2
患者（利用者）の意向を尊重した意思決定のためのACPを育みびと研修会	10月～12月	2
在宅医療勉強会	11月	1
筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の疾患理解	11月	1

区市町村介護予防事業担当者向け研修	12月	1
依存症相談対応研修（後期）	12月	1
在宅療養支援窓口取組推進研修	12月	1
居宅介護支援事業所管理者向けマネジメント支援研修	1月～2月	1
障害者雇用納付金制度説明会	2月	1
腰痛予防セミナー	3月	1
ACPって何？もしもの時に私らしさを貫いてもらいために大切なこと	3月	1
高齢者虐待防止・見守りネットワーク事業研修会	3月	1

④施設内研修 事業別に実施のため各事業において記載

（５）防災関係

消防署の指導による消防訓練を下記のとおり実施した。

回数	実 施 日	訓 練 内 容
1	令和6年4月25日	部分訓練、2・3階のみの避難訓練（夜間想定）
2	令和6年5月13日	部分訓練、新人防災講習訓練
3	令和6年6月27日	部分訓練、通所介護事業避難訓練
4	令和6年7月24日	部分訓練、火災時の宿直に対する夜間通報訓練
5	令和6年8月30日	部分訓練、自衛消防訓練審査会自主訓練
6	令和6年9月24日	部分訓練、特養 消火器・消火栓操作訓練
7	令和6年10月23日	消火訓練、岩戸町会合同震災訓練実施
8	令和6年11月27日	部分訓練、宿直に対する機器取り扱い訓練
9	令和6年12月25日	部分訓練、特養に対する夜間通報訓練
10	令和7年1月22日	消火訓練、通所介護事業避難訓練
11	令和7年2月27日	部分訓練、火災時の宿直に対する夜間通報訓練
12	令和7年3月26日	部分訓練、特養 消火器・消火栓操作訓練

（６）地域交流事業・広報活動

事 業	内 容
地域交流事業	地域向けに1回食事会を実施した。
こまえ苑広報委員会・ 広報誌の発行など	5月・8月・11月・1月という年間の発行計画に基づき毎号900部発行することができた。今年度も新型コロナ禍により地域との交流ができずこれらを記事にすることができなかったため、施設内で行われたイベントを積極的に掲載して情報発信を行った。 また、ホームページの充実については、広報委員会が中心となり日々の活動・行事の紹介等を更新することにより充実した内容になった。

1) 実習生受入れ状況

学校・施設名	年 月	人数 (1日)	日数	備考
慈恵第三看護専門学校	令和6年4月	6	1	特養
慈恵会医科大学看護学科	令和6年5月～6月	5	3.5	特養
慈恵第三看護専門学校	令和6年5月～9月	7	5	包括
狛江第四中学校職場体験	令和6年6月	2	2	デイ
狛江第二中学校職場体験	令和6年9月	3	2	デイ
喜多見中学校職場体験	令和6年9月	2	3	デイ
狛江第三中学校職場体験	令和6年10月	2	3	デイ
慈恵第三看護学校	令和6年12月～1月	6	12	デイ
東京都介護支援専門員実務 研修実習	令和7年2月	1	2	居宅

※上記以外にも、随時実習生を受け入れている。

2) ボランティア事業

新型コロナの状況を考慮しながら、ボランティアを再開した。

また、狛江市市民活動支援センターが開催したボランティアラリーの受け入れ先として、特養とデイサービスの傾聴ボランティアの受け入れを実施した。デイサービスでは、演奏ボランティアも再開した。今年度の新規ボランティア登録は7人で、活動実績は579回となった。

事 業	内 容
狛江市市民活動支援センターとの連携	ボランティア募集記事の掲載依頼 ボランティアラリーの受け入れ
ボランティアの募集	地域包括支援センターの協力や、ホームページの掲載により 新規のボランティア登録をすることができた
ボランティア会議の開催	奇数月第3金曜日に実施

ボランティア活動実績

(単位：回)

年度	洗濯	特養喫茶	デイサービス	園芸	計
令和6年度	87	177	206	109	579
令和5年度	131	90	177	209	607
令和4年度	98	0	0	255	353
令和3年度	0	0	0	29	29
令和2年度	0	0	0	0	0

4. 総務課

(1) 総務係

重点目標や目標に掲げた内容について、職員の退職者は抑えられ新規採用ができたため適正配置することができ、来年度に向け新卒者2人を採用できた。また、特養フロアでクラスターを発生させてしまったが、新型コロナ補助金等を活用し収益悪化を最小限に食い止めることができた。

1	目標	法人の使命・経営の理念・ビジョン及び基本方針を理解し、これに基づいた業務基盤の整備・確立を目指す
	評価	① 将来の設備等の更新に備え計画通り施設・設備整備等積立金を8,580万円積立てた。 ② 職員個々の研修派遣計画を立て、新卒者2人に階層別初任者研修に参加させるなど、対面研修で参加できるものは対面研修で参加した。 ③ 人材紹介会社等に頼らない人財採用活動を継続できた。また、正規職員の離職率（定年退職者は除く）は前年度同様1.6%となり、来年度の外国人特定技能実習生3人を採用した。 ④ 新型コロナ、インフルエンザ、感染性胃腸炎のクラスターが発生し、ホームページでリアルタイムに情報を公開した。 ⑤ 中央エレベーターと3階浴室の改修を実施した。 ⑥ 燃料費・物価高騰対策支援補助金、介護職員研修受講費補助金・介護職員介護支援専門員居住支援特別手当補助金・居宅介護支援事業所事務職員雇用支援補助金・介護支援専門員法定研修受講料補助等を申請した。また、（公財）JKAから3階の特殊浴槽の補助事業を完了させた。
2	目標	効率性・費用対効果を念頭においた課題検討と改善を目指す
	評価	① 特養の見守り支援機器・苑内Wi-Fi・ナースコールを有効活用し、職員の労務負担軽減につなげ、東京都生産性向上事業に申し込み、業務内容を大幅に見直した。 ② ウェブサイトを積極的に活用して安価な商品を精査することにより経費節減につなげ、来年度からの清掃業務と洗濯業務委託の内容を見直した。また、電気供給会社を変更し経費削減した。 ③ 人事異動により効果的な人員配置ができた。 ④ 自主研修制度により、介護福祉士試験に2人が合格、介護職員実務者研修を1人が修了、介護職員初任者研修を1人が修了した。

(2) 栄養係

1	目標	健康・栄養状態の維持、向上
	評価	① 一人ひとりの摂食嚥下状態に合わせた食事内容、食事形態で提供した。栄養スクリーニング・モニタリング表を多職種で共有し、多角的視点で改善策を見出した。 ② 24人に対して療養食を提供し、疾病の悪化進行を緩やかにした。 ③ 摂食嚥下不良により通常の食事量を喫食することが困難な利用者に対して、食事を濃厚流動食や栄養補助食品等に置き換えた。
2	目標	食事を通して生きる喜びを感じてもらう
	評価	① 行事食やバイキング等を実施し、献立はできるだけその季節が感じられるように工夫した。食材の切り方や彩りを考慮し、見た目や食感に変化を持たせるように調理した。 ② 通常の食事を食べることが困難になった方でも、最期まで好きなものを楽しめるように、5人の方にお楽しみ食（看取り食）を提供した。
3	目標	衛生面・安全面の向上、適正なコスト管理、在庫管理
	評価	① 厨房内は「大量調理施設衛生管理マニュアル」に沿った衛生管理を行い、安全な食事提供に努めた。残菜・残食量を把握し、食材費、廃棄費用のコストの削減に努めた。 ② 行政やフードバンクの備蓄品寄贈を活用し、19回以上の寄贈を受け、給食として提供することで食材費削減に繋がった。 ③ 職員食の下膳方法を見直し、食器の仕分けを職員自ら行ってもらったことで、厨房の超過勤務を減らすことができた。
4	目標	食事の要望や意見を取り入れ、満足度を向上させる
	評価	① 食事に関する様々な意見を聞き取り、献立や食事の提供時に反映させた。喫食時には、直接利用者の様子を見たり話を聞いたりする事により、要望に対して迅速に対応することができた。 ② 食事の満足度調査は聞き取り方式で行った。

1) 栄養の目標（栄養摂取基準）

利用者ごとに個別に設定した給与栄養目標量の平均値に安全率10%を考慮し、こまえ苑の給食栄養目標量とした。

以下には、令和6年度の栄養摂取基準及び栄養出納の平均量を示す。

区分	エネルギー	蛋白質	蛋白質エネルギー比率	脂質エネルギー比率	Ca	鉄	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食物繊維
単位	kcal	g	%	%	mg	mg	μgER	mg	mg	mg	g
必要量	1,400	60.0	15～20	15～25	600	6.0	450	0.80	1.00	85	15.0
提供量	1,411	59.8	17.0	26.4	605	7.0	616	0.89	1.09	113	14.4

5. 特別養護老人ホーム（ショートステイ含む）

令和6年度の感染症は、インフルエンザが11月、12月、1月に発生、新型コロナが5月と7月に発生、感染性胃腸炎は3月に発生しました。（P17、感染症の発生状況参照）

その際には、保健所へ連絡・報告し、助言を受け適切に対応しました。また、感染症の研修を2回実施し、東京都からの派遣研修では、感染症発生時においても落ち着いて安全に感染対応できるように対応力を向上させることができました。居室に関しても多床室の個室化や3階浴室を改修できたことで、感染対応によるフロア移動の時間も削減され、同室者の感染が減少し、各フロアで対応できたことが効果として現れています。保健所からも他のフロアへの感染拡大もなく短期間で収束できたことについて高く評価されました。

入退所の状況は、特養は、4月から2床増床したことにより平均利用者数が昨年の77.3人/日から79.1人/日となり収益増に繋がりました。ショートステイは、2床減床による影響を最小限にするため空床利用に努め、感染症の影響を受けましたが前年の稼働率83.8%から94.1%とアップしています。

介護の人財確保・定着・育成については、事業計画を各フロアに貼付や研修の際に内容が浸透できるように努めました。また、内部研修の年間計画を基本とし、外部研修や地域交流参加を促し、研修後の発表の機会を設け現場で活かせるような働きかけを促しました。

また、ICT等の見守り機器（ベッドセンサー・眠りスキャン）の活用も含め、東京都の生産性向上事業に参加し、プロジェクトを立ち上げて業務内容の一部見直しも実現できました。他にも社会福祉施設での社会的役割として、年3回地域の方々に運動を指導し、看護実習生の受け入れを計画的に実施しました。

（1）重点目標

全職種共通

1	目標	BCP（事業継続計画）を浸透させるための体制づくり
	評価	① BCP（自然災害）の担当者を4人（各フロア2人）配置した。 ② 担当者を中心に水害に関する研修・訓練を行った。 ③ BCP（感染症）の担当者を4人（各フロア2人）配置し、担当者を中心に感染症に関する研修・訓練を実施した。
2	目標	「看取り」「たんの吸引」を定着させるための体制づくり
	評価	① 担当者を中心に研修（年1回）を実施した。3カ月毎のお別れ会を通じご逝去された方の振り返りを行った。デスカンファレンスを個別に実施することはできなかった。 ② 喀痰吸引は夜間を中心に痰の吸引業務を実施している。また、研修の未終了者をピックアップし随時資格取得に向けて研修を実施している。手技を維持するため、指導看護師によるチェック体制の構築は未達成だった。
3	目標	職員体制の充実により、安定して質の高い介護が提供できる体制づくり
	評価	① 新規採用者へのマニュアルを活用したOJTは継続できている。定期的な振り返りは勤務終了時に実施し、業務内容が変わるごとに担当を配置、シフトに明記している。 ② 現任職員への研修は認知症、虐待防止、事故防止、感染症対策、看取り介護について実施した。ケアの標準化等に向け担当で話し合いを行い、マニュアルの修正を行っている。 ③ 虐待防止の研修を年2回行っている。利用者への接遇に関しては苑長による研修を実施し、書面でも注意喚起を行っている。 ④ 認知症ケアについての内部研修を年1回行っている。

		⑤ 介護職員等により利用者の口腔機能評価を月1回行い、診察等の必要がある場合は歯科医師等へ報告する体制を整えている。 ⑥ 内部研修や余暇活動について、シフトに明記し実施する体制を整えている。腰痛予防については、腰痛ベルトの着用を勧めている。リフトの利用は限定的だが利用している。
4	目標	医療的ケアや送迎の必要な方の受け入れ態勢を整える
	評価	① 入退苑の時間について、午前、午後、土日祝と柔軟に対応できている。 ② 軽度医療のある利用者の受け入れについては、在宅酸素（2人）とインスリン注射（5人）の必要な方について実施した。
5	目標	支援を継続できるための意識を改革していく
	評価	① ICT担当を配置した。眠りスキヤンの活用や生産性向上の取り組みを行っている。 ② 余暇活動については「喫茶いちょう」「音楽クラブ」「生け花クラブ」「集団体操」「カラオケ」を実施した。狛江市高齢者福祉大会へ参加した。 ③ 「事故防止」「虐待防止」「身体拘束適正化」の研修については年2回実施している。 ④ LIFEへの情報提出を継続して行っている。フィードバックの活用については、口腔機能評価を挙げ開始している。役割の分担については達成できなかった。 ⑤ 入所待機者を1～3人確保している。新規入苑までの空床期間は8.8日となっている。 ⑥ オムツ費用の見直しでは、商品の検討、試行を行った。 ⑦ 腰痛対策の介助方法へのアプローチは、腰痛ベルトの使用、リフトの使用を推進している。 ⑧ 3階浴室を改修し、8月から入浴を開始した。

ショートステイ

1	目標	軽度医療的ケアや送迎の必要な方の受け入れ態勢を整える
	評価	① 入退苑の時間について、午前、午後、土日祝と柔軟に対応できている。軽度医療のある利用者の受け入れについては、在宅酸素（2人）とインスリン注射（5人）の必要な方について行っている。
2	目標	支援を継続できるための意識を改革していく
	評価	① 入苑時と入浴時に全身観察を行い、全身状態の確認に努めている。 ② 空床ベッドの利用にあたっては、132日/年の利用ができた。 ③ 「看取り」の方の受け入れについて検討し、訪問診療を受けている方でかかりつけ医がおり、家族やサービス担当事業者との話し合いを設け同意を得た方（2人）を対象に受け入れを行っている。 ④ 「虐待防止」「身体拘束適正化」について年2回実施している。 ⑤ 今年度から2床減の6床となったが、稼働率は94.1%で前年比+10.1ポイントとなった。空床利用も132日/年の利用があった。

医務

1	目標	感染予防・感染拡大防止の強化
	評価	① 年2回の研修を行った。うち1回は外部（東京都）から感染対応について研修を実施し、予防衣の着脱や手指消毒について指導を受けた。また、感染性胃腸炎の感染が拡大した際に、保健所の職員により感染対応や嘔吐物の処理の仕方について指導を受けた。

		② 感染症発生時は密を避ける・手洗いの強化・フロアを跨いでの移動を避けるなどを行い、他のフロアへの感染を防ぐことができた。新型コロナは6日間、8日間、インフルエンザは17日間、9日間、感染性胃腸炎は21日間の感染期間で収束できた。
2	目標	看取り介護の継続
	評価	① 看取り介護向上委員会が中心となり研修(年1回)やお別れ会(年3回)を実施するなど、亡くなった方を惜しむことができた。 ② 実地として口腔ケアや保清など職員が進んで行った。 ③ 死後のエンゼルケアを行った。看取りについては家族との問題もなく継続できた。 ④ 職員のグリーフケアのためのデスカンファレンスの実施はできなかった。
3	目標	「褥瘡ケア」「夜間のたん吸引」の継続
	評価	① 夜間のたん吸引について報告・評価ができた。問題なく実施継続できた。 ② 褥瘡ケア計画書の見直しを3カ月毎に実施できた。褥瘡内部研修は年1回実施できた。11件の褥瘡発生がありそれぞれ処置や栄養改善、除圧に努めるなど対応したことで改善又は改善傾向となっている。
4	目標	支援を継続できるための意識を改革していく
	評価	① 手袋・予防衣など医療用品の購入は低コストで抑えることができた。 ② 業務マニュアルを作成した。

(2) 利用者数・平均年齢

年度末現在(単位:人・歳)

年度	男		女		男女	
	人数	平均年齢	人数	平均年齢	人数	平均年齢
令和6年度	23	84.5	59	86.9	82	86.2
令和5年度	22	82.7	55	87.3	77	86.0
令和4年度	22	83.9	58	87.2	80	86.3
令和3年度	19	83.1	59	87.1	78	86.1
令和2年度	20	80.6	60	87.0	80	85.4

(3) 在苑期間の状況

年度末現在(単位:人)

在苑期間	男	女	計	構成比(%)
～1年未満	9	18	27	32.6
1年以上～2年未満	6	10	16	19.4
2年以上～3年未満	2	7	9	10.8
3年以上～4年未満	0	5	5	6.0
4年以上～5年未満	3	3	6	7.2
5年以上～6年未満	1	3	4	4.8
6年以上～7年未満	1	1	2	2.4
7年以上～8年未満	0	2	2	2.4
8年以上～9年未満	0	3	3	3.6
9年以上～10年未満	2	5	7	8.4
10年以上	0	2	2	2.4
合計	24	59	83	100.0

(4) 退所者の状況

令和6年度

性別	年齢	退所年月日	在苑期間		退所理由
男	87歳	R 6. 4. 15		4ヵ月	死亡
男	73歳	R 6. 5. 8	10年	10ヵ月	死亡
女	92歳	R 6. 5. 10	1年	1ヵ月	死亡
男	84歳	R 6. 5. 26		2ヵ月	死亡
女	91歳	R 6. 6. 20	10年	7ヵ月	死亡
女	100歳	R 6. 6. 23	1年	7ヵ月	死亡
女	98歳	R 6. 6. 26	3年	2ヵ月	死亡
女	86歳	R 6. 6. 26	4年	2ヵ月	死亡
女	82歳	R 6. 8. 4		1ヵ月	入院
女	90歳	R 6. 8. 11		4ヵ月	入院
女	92歳	R 6. 8. 15		5ヵ月	死亡
男	88歳	R 6. 8. 27	3年	10ヵ月	死亡
女	98歳	R 6. 8. 27	1年	4ヵ月	死亡
女	94歳	R 6. 9. 5	7年	3ヵ月	入院
女	84歳	R 6. 9. 21	2年	0ヵ月	死亡
男	96歳	R 6. 9. 21		5ヵ月	死亡
女	72歳	R 6. 9. 26	5年	5ヵ月	入院
男	90歳	R 6. 10. 4	1年	8ヵ月	入院
男	83歳	R 6. 10. 15		7ヵ月	入院
男	81歳	R 6. 10. 18		1ヵ月	死亡
女	96歳	R 6. 11. 4		5ヵ月	死亡
女	90歳	R 6. 12. 17	3年	6ヵ月	死亡
男	84歳	R 6. 12. 20	4年	1ヵ月	入院
女	95歳	R 7. 1. 21	8年	11ヵ月	死亡
女	87歳	R 7. 2. 15	2年	4ヵ月	死亡
女	85歳	R 7. 2. 28	6年	8ヵ月	入院
男	76歳	R 7. 3. 4		11ヵ月	死亡
内訳	死亡による退所 19人 (男7人、女12人)				
	入院による退所 8人 (男 3人、女 5人)				
	居宅へ戻る退所 0人 (男 0人、女 0人)				
	合 計 27人 (男10人、女17人)				

(5) 入退所者数の状況

(単位：人)

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
人数	27	34	24	16	27

(6) 稼働率

(単位：％)

年度	特養＋ショートステイ		ショートステイ	
	稼働率	前年度比	稼働率	1日平均(人)
令和6年度	96.3	0.8	94.1	5.6
令和5年度	95.5	▲1.0	83.8	6.7
令和4年度	96.5	▲1.0	88.8	7.1
令和3年度	97.5	1.9	92.5	7.4
令和2年度	95.6	▲1.2	81.3	6.5

注) 令和6年度から特養82床、ショートステイ6床 令和5年度まで特養80床、ショートステイ8床

(7) 看取りの状況

(単位：人)

年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
人数	18	25	13	13	24

(8) ADLの状況

1) 要介護度比率

年度末現在 (単位：％)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和6年度	1.2	2.4	15.9	37.8	42.7
令和5年度	2.5	2.5	14.2	42.8	37.6
令和4年度	2.5	1.2	13.7	46.3	36.3
令和3年度	2.6	0.0	19.2	44.9	33.3
令和2年度	2.5	0.0	18.8	42.5	36.3

2) ADL (日常生活動作) の比率

年度末現在 (単位：％)

年度	J	A	B	C
令和6年度	0.0	17.1	47.5	35.4
令和5年度	1.2	28.5	54.5	15.5
令和4年度	1.2	25.0	52.5	21.3
令和3年度	3.8	23.1	53.9	19.2
令和2年度	2.5	20.0	57.6	20.0

分類の基準「障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)」

ランク	状 態
J	何らかの障害等を有するが日常生活はほぼ自立しており、独力で外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドでの生活が主体であるが、座位を保つ。
C	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。

3) 認知症の比率

年度末現在 (単位：％)

年度	自立	I	II	III	IV	M
令和6年度	1.2	2.4	14.6	28.0	48.8	4.9
令和5年度	0.0	5.1	22.0	33.7	36.3	2.5

令和4年度	1.2	3.7	15.0	42.5	33.9	3.7
令和3年度	1.3	5.1	21.8	44.9	24.3	2.6
令和2年度	1.3	3.8	18.8	43.8	30.0	2.5

分類の基準「認知症高齢者の日常生活自立度」

基準	状 態
I	何らかの認知障害を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や、意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

(9) 利用者の日常生活

1) 行事実施状況

開催月日	行事名	内容等
5月2日～5日	菖蒲湯 端午の節句	入浴日に合わせて湯船に菖蒲を浮かべ、香りや季節感を味わった。端午の節句では兜や季節にちなんだ飾りとともにレクリエーションを楽しんだ。
7月7日	七夕	各フロアに笹を準備し、願い事を書いた短冊や飾りを下げ「七夕のうた」を歌唱した。
9月4日	敬老会	昼食に祝い膳を提供、午後から各フロアの食堂にてお祝い会を開催。（今年の贈答品はからくり時計をリニューアル。各階食堂に飾り時間経過の音楽を楽しんだ）
9月28日	こまえ苑祭	室内フロア別及び利用者家族参加形式で開催。昼食は屋台風メニューをバイキング形式、午後は各フロア模擬店形式で釣りゲームやスイカ割りゲームなどを提供。利用者、家族ともに行事を楽しむ時間を過ごした。
12月25日	年忘れ クリスマス会	各フロア別で開催。クリスマスの飾りつけやクリスマスをモチーフとした食事を提供しつつ、カラオケやジェスチャーゲームなどの職員による余興を楽しんでいただき、一年を締めくくった。
12月23日～25日	ゆず湯	今年も入浴日に合わせて湯船にゆずを浮かべ、香りや季節感を味わった。
1月1日～	初詣	外出形式の初詣再開を視野に企画していたが、感染症流行により断念した。ふれあいホールに模擬神社を設営しフロア別に初詣を実施。（6日まで設置）昼食には祝い膳を提供した。
1月8日	もちつき大会	感染症収束により各フロアにて開催した。鏡開きの雰囲気を味わった。

2月3日	豆まき	フロアごとに実施。豆まきを行い、職員が鬼の扮装をして各居室の練り歩きを行った。（令和7年は2月2日が節分だったが例年通り3日開催とした。）
3月3日	ひな祭り	フロアごとにひな人形を飾り（今年度新しく購入）、レクリエーションを楽しんだ。

2) クラブ活動

種類	開催日	時間
生花クラブ	第2・第4金曜日	10時20分～11時20分
音楽クラブ	毎週木曜日	10時20分～11時20分

3) 散歩・買物・カラオケ・個別外出

事業	内容
買物	一時ネットスーパー再開も終了となり、職員個別に買い出しを継続
散歩	家族の面会再開と共に近隣散歩解禁。ただ職員対応は行事時やベランダ日光浴にとどまる
カラオケ	出勤人数に余裕がある時に数回開催した
個別外出	ご家族の面会再開に合わせ時期限定で解禁したが企画できず実施なし

4) 理容・美容

種別	実施日	料金	協力機関
理容	毎月1回 第4月曜日	散髪のみ 2,200円 顔剃りのみ 1,200円 セット 2,700円	東京都理容環境衛生組合武蔵調布支部 毎回2～3人
美容	偶数月1回 第3木曜日	カット 3,355円 パーマ、マニキュア 10,890円	ディチャーム株式会社 毎回2～3人

<理容・美容実施状況>

（延人数 単位：人）

年度	理容		美容		合計	
	特養	ショートステイ	特養	ショートステイ	特養	ショートステイ
令和6年度	148	2	266	3	414	5
令和5年度	123	3	293	5	416	8
令和4年度	133	4	288	0	421	4
令和3年度	156	—	317	6	473	6
令和2年度	124	—	243	—	367	—

(10) 家族との行事

行事	開催日	参加人数	備考
こまえ苑祭り	9月28日	31人	感染症対策によりフロア別に室内で開催
家族懇談会	5月5日 11月16日 3月8日	24家族、30人 17家族、16人 21家族、26人	第1回 第2回 第3回

(11) 医療と看護

利用者の健康管理とともに、安全で快適な日常生活が送られるよう看護サービスの

充実に努めた。感染症に対しては、手洗い・うがい・体温測定の徹底を基本としている。

1) 健康管理・健診

健康管理・健診	内 容
入苑時健康管理	入苑後の嘱託医・歯科衛生士による診察を実施した。入苑日より3日間はバイタルチェックを実施した。
健康診断	6月に健康診断を実施。採血・レントゲン・心電図・尿検査ができた。
歯科健診	8月に狛江市歯科医師会による歯科健診を実施した。週1～2日歯科医師往診により通院が困難な利用者の歯科治療を行うことができた。

2) 感染症の発生状況

期間	日数	感染症	内 容
5/20～5/25	6日	新型コロナ	新型コロナが看護師1人発症後、3階入居者4人が感染となった。
7/9～7/16	8日	新型コロナ	新型コロナが発生し3階入所者16人と職員9人（内2階看護師2人）合わせて25人が感染。1人肺炎で入院となった。
11/29～12/16	17日	インフルエンザ	2階フロアでインフルエンザが発生し、入所者11人と職員4人合わせて15人が感染した。
12/29～1/3	9日	インフルエンザ	3階の利用者1人だけ発症が見られた。
3/6～3/25	21日	感染性胃腸炎	2階フロアで感染性胃腸炎が発生し、利用者16人、職員6人発症合わせて22人が感染した。

別表1

新型コロナ
新型コロナは5月と7月に発症したが、各フロアの感染で収めることができた。感染症対応について保健所と情報を共有し、情報の更新を行いながら対応を実施。新たに個室化した居室で極力居室の中で生活全般を完結させるなど対応を行った。また、今年度も東京都の感染症の派遣研修を活用し研修を実施し、重症化した利用者を出すことなく収束させることができた。 【対応】 ① 情報を取り入れ、産業医・嘱託医と相談しながら、研修の中でも周知徹底した。 ② 発熱者については、嘱託医の指示のもと速やかに抗原検査を実施し、必要性のある利用者には、家族に了承を得て治療薬を服用した。 ③ 面会については、感染したフロアのみ中止し（看取り介護対象の方の面会は制約なく可としている）入浴、イベントやクラブ活動も中止した。 新型コロナワクチン接種はほぼ全員接種している。

3) 肺炎球菌ワクチンの接種状況

(単位：人)

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
接種者数	5	23	0	39	2

4) 嘱託医による施設内の診察状況

(延人数 単位：人)

年度	内科	精神科	皮膚科	歯科往診	合計
令和6年度	1,889	234	90	61	2,274
令和5年度	1,793	154	88	17	2,052
令和4年度	1,890	96	89	33	2,108
令和3年度	2,030	121	100	17	2,268
令和2年度	1,947	150	107	25	2,229

5) 他の医療機関による診療状況

(延人数 単位：人)

年度	内科	外科	整形外科	耳鼻咽喉科	皮膚科	脳外科
令和6年度	48	8	54	13	8	7
令和5年度	42	1	17	0	13	5
令和4年度	53	2	19	2	13	7
令和3年度	36	6	26	2	21	7
令和2年度	28	3	22	3	3	4

年度	婦人科	泌尿器科	精神科	眼科	歯科	合計
令和6年度	1	1	1	16	0	157
令和5年度	0	2	3	0	17	100
令和4年度	2	2	3	5	0	108
令和3年度	0	1	2	1	4	106
令和2年度	5	3	2	5	6	84

6) 入院医療機関の利用状況

(単位：人)

病院名	延人数	病院名	延人数
慈恵医科大学付属第三病院	9	さつきホスピタル	1
日産厚生会玉川病院	18	東京医療センター	1
世田谷記念病院	1	昭和医大藤が丘病院	1
世田谷中央病院	1	杏林大学病院	1
関東中央病院	2	田園調布中央病院	1
合 計		36	

7) 入退院の状況・救急車による搬送

(延人数 単位：人)

年度	入退院者	救急搬送者
令和6年度	28	25
令和5年度	25	20
令和4年度	16	4
令和3年度	14	7
令和2年度	21	10

(12) リハビリテーションとマッサージ

種 別	内 容
機能訓練、嚥下マッサージ	月曜日から金曜日まで、機能訓練指導員において、マッサージ及び可動域訓練などの機能訓練を行っている。ま

	た、昼食前に誤嚥予防の観点から嚥下マッサージを実施している。
リハビリテーション	機能訓練指導員が、作業療法士（OT）から引き継ぐ形で個別リハビリを行っている。なお、集団体操は、機能訓練指導員と連携のうえ水曜日にリハビリ担当が中心になり実施し、より多くの利用者にリハビリの機会を設けている。
個別機能訓練実施計画書	3カ月に1回の評価を行い、個々のニーズに則した計画を作成している。変化に即した計画の変更を実施している。

<実施状況>

(延人数 単位：人)

年度	個別リハビリ	機能訓練	嚥下	合計
令和6年度	110	3,111	183	3,404
令和5年度	190	2,978	227	3,395
令和4年度	337	3,346	277	3,960
令和3年度	417	3,275	491	4,183
令和2年度	401	3,436	404	4,241

6. 高齢者デイサービスセンター

通所介護と認知症対応型通所介護は前年度の稼働率を上回りましたが、日常生活支援総合事業は前年度を下回る結果となりました。

通所介護の前期に事業所規模の平均利用延人員数750人を超える想定があり、受け入れを一時中止しながらの調整となりました。

世田谷区の一部地域の利用者也増加傾向にあり、登録者数の約1割に達しました。

認知症対応型通所介護では介助量の多い利用者の受け入れができました。また、定員に近い登録があり、個別の対応と全体を通しての対応力を養うことができました。

今年度の企画として地域の居宅支援事業所との連携を深めるために、介護支援専門員向けの見学会を行いました。また、秋には地域住民を対象とした、こまえ苑見学会を行いました。他部署と連携して苑全体の見学と食事会を行うことで、こまえ苑をアピールする良い機会となりました。

1	目標	サービス内容の充実を図る
	評価	① 入浴は加算の算定要件にもある研修を行い、利用者と職員双方に負担の少ない介助方法を学び、個浴を継続している。
2	目標	認知症の理解を深める
	評価	① 職員会議での研修とカンファレンスを行い、利用者それぞれに統一した接遇を行っている。 ② 認知症介護実践リーダー研修の取り組みや報告を行った。
3	目標	稼働率の安定と向上を目指す
	評価	① 新規利用調整に関しては、見学調整から利用開始の意向に沿う対応を行っている。他施設の見学はできていない。 ② スポット利用や送迎時間の変更等迅速に対応している。 ③ 在宅酸素、インスリン注射、尿カテーテル利用者の受け入れができている。 ④ 業務効率化を目指し、マニュアルの見直しを随時行っている。 ⑤ 新たな加算の算定はできていない。 ※利用者数（稼働率） <通所介護> <認知症対応型通所介護> <総合事業> 1日平均 29.11人（83.2%） 1日平均 6.62人（66.2%） 1日平均 1.69人（33.7%）

（1）事業活動状況

① デイサービスの一日

開始時刻	活動内容
9：00	利用者到着・健康チェック・水分補給
10：40	朝の会・活動
12：15	昼食
13：00	コーヒータイム・談話
14：00	活動
15：15	おやつ・水分補給
16：00	1便出発・第三活動

② 通所介護、総合事業での活動

内容	体操・カラオケ・書道・頭の体操・テーブルゲーム・歌の会・音楽クラブ・手工
----	--------------------------------------

	芸・壁面装飾・レクリエーションゲーム
評価	活動については大きく4つの要素の活動に分けた。 ① 身体機能の維持・向上を図る体操 ② レクリエーション要素のゲーム、テーブルゲーム、頭の体操 ③ 創作、文化活動として、手工芸、カレンダー製作、壁面装飾、書道 ④ 音楽活動として、音楽クラブ、カラオケ、歌の会 この4つの要素の活動をバランスよく計画し、各実施日担当職員を中心に、新しいゲームの考案や内容の改善に取り組んでいる。 また、手工芸やカレンダー製作については、準備作業の部分（パーツの切り分け作業などを中心）も、希望する利用者が行うことで、その満足感も作品の完成だけで終わらせず、一連の作業を含め達成感に浸る貴重な時間を提供できている。前年度に引き続き、持ち帰り作品や季節に応じた壁面装飾の活動に様々な職種の職員が関わって企画することで、より多彩でクオリティーの高いものが提供できている。

③ 認知症対応型通所介護での活動

内容	認知症特有の症状がある高齢者を対象に、明るくゆったりとした環境をつくり、情緒の安定と心身機能の維持・向上を目的とした援助に努めた。紐巻きやパズル、塗り絵などを取り入れた機能訓練や、長い廊下を生かした歩行訓練も実施している。マシントレーニング機器を活動の中で取り入れ、無理のない範囲での体力維持を継続している。また、日常生活に即した作業（タオル畳み・テーブル拭き）、手工芸などの作業も取り入れている。
評価	いつもの場所で、いつもの活動を、いつものメンバーと過ごせる落ち着いた環境づくりに注力し、安心して通所できる場所として提供できている。余暇の時間の充実を図り、利用者同士の交流も兼ねるテーブルゲームや合唱などで楽しめる雰囲気作りに注力した。加えて個別性を考慮し、その方の気持ちに寄り添った活動を提供している。利用者の心身の変化、ニーズに即した活動を提供できるよう職員間で情報共有に努め、日々のケアに生かしている。

④ 入浴

内容	利用者の健康状態に合わせ、特殊浴槽・一般浴槽での柔軟な対応を行っている。利用回数に関わらず希望される利用者に週2回の入浴日を設け、実施している。また、入浴サービス開始時及び1年ごとに、主治医からの身体状況に関する情報の提出、健康チェック・感染症予防や急変防止に努めた。 春は菖蒲湯・冬はゆず湯を行い季節を感じる取り組みを企画した。
評価	今年度も定員18人入浴希望のある方の受け入れも多くできているが全曜日数人が待機している状態である。季節の企画は好評だったため引き続き行っていきたい。

⑤ 食事

内容	食事形態の変更や自助食器の提供などの利用者の状態に合わせた個別対応を実施している。ソフト食も含め身体状況に合わせた特殊調理を施した食事の提供も行っている。誕生会のある週には、特別感のあるケーキ、行事ではテーマに合わせた食事やおやつを提供している。毎月一日は赤飯を提供している。 今年度も好評であったイベント食【寿司バイキング】を実施し、利用者の目の前で寿司を握り、提供することができた。「おいしかった」との声も多く聞かれた。水分提供については、麦茶の提供を実施している。
----	---

評価	利用者の嗜好による要望等についても細やかに対応することができた。来年度も食事に対する日々の意見を取り入れられるように心掛けていく。前年度に引き続き麦茶の提供を行い、より一層脱水予防に努める。
----	---

⑥ 健康チェック・機能減退防止・健康増進

内容	利用者の高齢化が進み、独居又は高齢者のみ世帯の利用者が増え、医療行為を必要とする利用者も多い。自己管理が難しい利用者の薬を預かる等の服薬支援、活動状況・食事水分量・体重管理、皮膚トラブル（スキンケア・脂漏性湿疹・むくみなど）対応、在宅酸素、排泄状況・尿カテーテル管理など継続的に健康状態の観察を行い、異常の早期発見・早期対応に努め、利用者・家族へのアドバイスや連絡、必要時他部署との医療連携を行っている。
評価	利用者の情報収集を行うとともに日々のケアを通して、バイタルサイン測定や健康状態の観察・報告を行い、利用者家族、関係職種・事業所等との連携を取り、利用中の健康状態や異常の早期発見・早期対応に努め、専門職としてのアドバイスを利用者や家族に行うことができている。 毎月の体重測定により、利用者の状況把握と情報提供ができている。また、利用者の状態により主治医から求められた場合には、ケアの継続・状態変化の報告をすることができている。MCSによる情報共有は、利用者の状態把握とタイムリーな連携に大変役立っている。

⑦ 送迎

内容	送迎範囲を市内の遠隔地や世田谷区喜多見1～5丁目と7丁目までに拡大している。利用者の状況により、時間の変更や複数回の送迎等、要望に沿った送迎を継続している。 通常の送迎車に加えて軽自動車による個別対応を継続している。これにより、一定数以上の利用者を受け入れることができている。
評価	要望に沿った送迎を実施できている。送迎範囲を拡大していることで一日の送迎できる人数に限界があり、その日の定員を満たすことが難しくなっている。 利用者の組み換えで送迎時間の効率を高める必要がある。

⑧ 講師によるクラブ活動

内容	感染症予防対策を実施しながら砧音楽療法研究会の野田講師による音楽クラブを開始した。
評価	音楽クラブは月に1回、利用者が均等に参加できるよう、毎月曜日を変えて実施している。

⑨ 行事实施状況

月	行事名	内 容
7月	納涼祭	2日間の開催。昼食は松花堂弁当を提供。夏野菜の天ぷら等、夏を感じる食べ物があり、利用者も季節の旬の食べ物を楽しまれる。 昼食後にスイカ割りを行った。スイカ割り担当職員に目隠しをし、利用者が左右の声掛けをして見事に割ることができ、歓声があがった。 午後の活動時に機能訓練室にて「納涼縁日」と題し、かき氷、くじ引き、手作りの金魚すくいを行った。グループごとに機能訓練室に移動し、自席にいる利用者には、職員がバルーンアートをして席を回った。お祭りの気分を満喫してもらい楽しむことができた。

		更にお祭りの雰囲気演出できるように、装飾、BGM、祭り半纏や豆絞りも使用している。
9月	敬老会	2日間の開催。昼食は敬老祝い膳を提供「いつもより豪華で美味しかった」等の感想があった。午後の活動時間を使用し前半に一人ひとりにお祝い品の贈呈を行い、後半は音楽ボランティアにより（オカリナ、バンド演奏）演奏を披露、普段の活動とは違った雰囲気を提供することができた。お祝い品のブランケットも好評であった。
1月	新年会	2日間の開催。お正月らしさの共有をテーマに【獅子舞】【南京玉すだれ】【福笑い】【二人羽織り】を実施した。利用者からは久しぶりに大笑いしたわ！など楽しむ様子が伺えた。最後に「一月一日」を合唱し職員からの新年の挨拶を行った。 昼食は、赤飯、天ぷら、お刺身、おせち盛り合わせなど、新年にふさわしいものを提供し完食者多数の高評価だった。
評価		今年度も利用者参加型の企画を考案し大変好評であった。今後は単調化しないようボランティアの受け入れも検討する。

（２）家族懇談会

開催状況

開催日	第1回	第2回
	令和6年5月11日	令和6年10月17日
参加家族数	21人	14人
開催内容	① 苑長挨拶・職員自己紹介・スライド鑑賞 ② グループに分かれて、懇談会 ③ こまえ苑からのお知らせ	① 苑長挨拶・職員自己紹介・スライド鑑賞・口腔ケアの講話 ② グループに分かれて、懇談会 ③ こまえ苑からのお知らせ
評価	利用している事業以外の内容を紹介することができた。各開催日の曜日を同じにできなかったことで参加者が増えたと思われる。施設と家族の双方で利用者を支えることの理解を共有することができた。	

（３）運営推進会議（認知症対応型通所介護）

開催状況

開催日	第1回	第2回
	令和6年6月18日	令和6年11月22日
出席者	利用者、家族、地域の代表者、自治体職員、地域包括支援センター職員、事業所職員2人、事業所代表者、事業所管理者	地域の代表者、自治体職員、地域包括支援センター職員、事業所職員2人、事業所代表者、事業所管理者
主な内容	① サービス提供内容について ② 利用者数等の事業実績について ③ その他意見交換	
評価	地域の現状を共有し、今後地域とどのように密着した関わりを深めていくか出席者で意見交換を行った。こまえ苑認知症対応型通所介護では新規利用が増え、ニーズがあることを報告した。来年度も近隣エリアのみならず、遠方の利用者の受け入れなど柔軟に対応できるよう体制を整えていくことが課題である。	

(4) 利用率の推移

(単位：%)

年度	通所介護、 介護予防通所介護、 総合事業・国基準 通所型サービス	総合事業・ 市基準通所型 サービスA	認知症対応型
令和6年度	83.2	33.7	66.2
令和5年度	75.6	45.3	57.1
令和4年度	72.0	62.2	57.5
令和3年度	66.7	81.0	59.1
令和2年度	62.7	75.7	50.4

※ 令和5年度より認知症対応型の定員を10名から12名に変更。それぞれのパーセンテージで記載しています。

(5) 男女別利用者数

① 通所介護、介護予防通所介護、総合事業・国基準通所型サービス (延人数 単位：人)

年度	男	女	計
令和6年度	2,566	6,401	8,967
令和5年度	2,456	5,690	8,146
令和4年度	2,606	5,160	7,766
令和3年度	2,687	4,506	7,193
令和2年度	2,033	4,725	6,758

② 総合事業・市基準通所A

(延人数 単位：人)

年度	男	女	計
令和6年度	20	499	519
令和5年度	0	656	656
令和4年度	105	848	953
令和3年度	143	1,105	1,248
令和2年度	138	1,028	1,166

③ 認知症対応型

(延人数 単位：人)

年度	男	女	計
令和6年度	1,064	1,382	2,446
令和5年度	755	1,356	2,111
令和4年度	455	1,314	1,769
令和3年度	280	1,539	1,819
令和2年度	288	1,265	1,553

(6) 要支援度・要介護度の比率

① 通所介護、介護予防通所介護、総合事業・国基準通所型サービス (単位：%)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和6年度	34.5	27.6	18.4	12.5	7.1
令和5年度	36.6	24.6	19.7	10.7	8.4
令和4年度	35.1	33.8	13.9	8.9	8.3
令和3年度	37.6	34.9	9.8	9.6	8.1
令和2年度	35.3	33.4	8.5	11.4	10.0

② 総合事業・市基準通所A (単位：%)

年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2
令和 6 年度	34.3	36.4	29.3
令和 5 年度	37.8	10.4	51.8
令和 4 年度	40.2	5.0	54.8
令和 3 年度	32.3	7.4	60.3
令和 2 年度	34.7	7.2	58.2

③ 認知症対応型 (単位：%)

年度	要支援1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
令和 6 年度	0.0	16.9	29.9	25.9	5.9	21.4
令和 5 年度	0.0	12.0	25.9	30.4	22.3	9.4
令和 4 年度	0.0	11.0	23.9	40.3	14.4	10.5
令和 3 年度	0.0	6.9	19.3	46.4	12.8	14.6
令和 2 年度	0.0	6.4	11.9	52.1	6.5	23.0

(7) 入浴サービス (延人数 単位：人)

年度	一般入浴	機械入浴	合計	一日平均
令和 6 年度	2,761	1,793	4,554	14.5
令和 5 年度	2,628	1,600	4,228	13.7
令和 4 年度	2,366	1,268	3,634	11.8
令和 3 年度	2,132	992	3,124	10.1
令和 2 年度	1,664	827	2,491	8.1

(8) 年齢構成 令和 7 年 3 月 31 日現在

年齢 (歳)	通所介護			総合事業			認知症対応型			合計			構成比 %
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
64未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
65-69	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.9
70-74	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	2	1.7
75-79	2	5	7	0	2	2	0	1	1	2	8	10	8.6
80-89	11	26	37	1	3	4	5	8	13	17	37	54	46.6
90-94	5	20	25	0	4	4	3	5	8	8	29	37	31.9
95以上	5	5	10	0	0	0	1	1	2	6	6	12	10.3
合計	24	56	80	1	10	11	10	15	25	35	81	116	100.0

(9) 曜日別利用率 令和 6 年度 (単位：%)

曜日	通所介護	総合事業	認知症対応型	合計
月	82.3	21.7	59.7	54.6
火	86.6	72.8	61.1	73.5
水	83.1	11.2	64.1	52.8
木	76.4	0.0	63.0	46.5
金	86.3	37.3	71.2	65.0
土	83.8	43.3	74.2	67.1

7. ホームヘルプ事業

事業所の安定運営を図るため、新規利用者の獲得に力を入れ年間98件の新規依頼を受けた。年度目標として身体介護4,800時間/年としたが、大幅に目標を超え5,100時間となった。収入も5千万円を超えて過去最高の収入となっている。

登録ヘルパー1人が介護福祉士資格を取得した。また、常勤ヘルパーの勤務日を増やすなど、ヘルパーの稼働時間増に取り組んだ。

(1) 従業員の人数

- | | |
|-------------|-----|
| ① サービス提供責任者 | 5人 |
| ② 常勤ヘルパー | 5人 |
| ③ 登録ヘルパー | 13人 |
| ④ 認定ヘルパー | 7人 |

1	目標	専門職として知識や技術の向上を図る
	評価	① 全12回のミニ研修会を毎月の定例会で実施しヘルパーの知識の積み上げを行った。 ② 定例会の中でヘルパー自身が支援の難しさや悩みなどを話す機会を作り、他のヘルパーとの共有を通して一人で抱え込まずに相談できる体制づくりに取り組んだ。 ③ 接遇マナー研修を実施し、利用者・家族から信頼される専門職としての対応を学んだ。 ④ 高齢者虐待に関する委員会と研修会を開催し、ヘルパーの知識の向上を図る事が出来た。 ⑤ 実務者研修の受講を経て介護福祉士の国家試験に1人のヘルパーが合格した。その他1人が初任者研修の受講を終えている。来年度こまえ苑で開催予定の実務者研修講座にも2人が参加希望を申し出している。
2	目標	介護支援専門員及び関係事業所との連携を強化する
	評価	① 新規依頼数は前年度よりも増加しており、介護支援専門員との連携もとれている。特に外部の事業所からの依頼が増えている。 ② ヘルパー事業所連絡会は開催がなく会の活動がない状態が続いている。他事業所との連携を図るため、合同での研修会などの働きかけをしていく必要がある。
3	目標	事故防止への取り組み
	評価	① 定例会の中で毎月事故報告を行い、事故が起きた原因や対応策についてヘルパー全員で共有することで事故防止に努めた。
4	目標	事業継続計画の策定
	評価	① BCPの研修を研修計画に位置付けて、7月に研修を実施した。毎年度実施することで、BCPの理解を深めていく。

ホームヘルプサービス実績

年度	身体介護	生活援助	訪問型独自	訪問型定率	保険対象外	合計
6年度	5,127.07	4,353.35	510.25	1,604.07	36.5	11,631.24
5年度	4,747.65	4,093.42	359.50	1,226.65	8.00	10,435.22
4年度	3,141.86	3,931.32	159.25	951.47	13.08	8,196.98
3年度	3,041.19	3,699.48	270.33	793.08	5.91	7,809.99
2年度	2,315.90	2,835.80	427.30	881.80	0.00	6,460.80

8. 地域包括支援センター

1	目標	＜介護予防ケアマネジメント＞ 介護予防・日常生活支援総合事業に関する市民からの相談対応、各種案内を行い、適切なケアマネジメントを実施する
	評価	新型コロナに係る要介護認定の臨時的な取り扱いが終了し、要介護から要支援への移行者が増え、約230件/月の介護予防ケアマネジメントを実施している（「(6)－2 予防プラン作成件数」参照）。委託件数は20件/月前後と同様の傾向となっている。ケアマネジメント以外の事業が増大する中、業務の整理やバランスが今後も課題となっている。 令和6年度より、居宅介護支援事業所が予防支援の指定を取得できるようになったが、現時点で1事業所のみとなっており、制度改正による効果は期待できない状況である。
2	目標	＜総合相談支援事業＞ 複雑化する高齢者の相談に対して総合的な相談機能の強化を図る
	評価	年間9,000件以上の相談に対応した。単身・身寄りなし、認知症、経済困窮、障害福祉との連携、転居者、外国人、ペット、ヤングケアラーなど複合的な相談が増加している。 相談内容では、令和5年度同様に権利擁護事業と包括的・継続的ケアマネジメント事業の増加率が高かった（「(6) 相談内容」参照）。これにより介護支援専門員からの相談（「(5) 相談者」参照）、介護度が高いケース（「(3) 介護度」）が増えている要因となっている。 また、未申請や申請中の方への対応も増えており、暫定期間の対応や介護サービスを利用しない方への見守りや伴奏支援が増加していると考えられる。 年齢（「(4) 年齢」参照）では、寿命の延伸により90歳以上の方の増加率が高く、令和3年と比較すると倍以上になっている。 相談形態（「(2) 相談形態」）では会議が増えており、複合的なケースの増加に伴い、地域ケア会議、認知症初期集中支援チーム、重層的支援体制整備事業などを積極的に活用し、多機関と協働しながらの対応ができていると考えられる。 令和7年度を迎え、後期高齢者の増加に伴い相談対応もさらに増えることが予測され、業務の効率化や質の維持が課題となる。
3	目標	＜権利擁護事業＞ 高齢者が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活できるように支援を行う
	評価	年間延べ217件（前年度191件）の虐待対応を行った（「(6)－3 権利擁護事業相談内容別前年度比増加率」参照）。疑いを含む新規の受理会議は15件（前年度12件）と年々増加傾向となっている。通報者は介護支援専門員が最も多く、支援者の虐待防止への知識・意識が高まったことも増加の要因と考えられる。また、虐待に至るまでの潜在的な家庭内の課題が介護サービスの介入により「高齢者虐待」という形で顕在化するケースも多く、擁護者支援も含めて多角的な支援が必要なケースが多くなっている。 消費者被害に関する対応は、年間5件（前年度20件）の相談に対応した。消費者被害防止の普及啓発として2か所のサロンで講座を実施した。意識が高まったことで未然に防げたケースもあったが、新たな手口の点検詐欺やインターネット上でのトラブルなどもあった。 成年後見制度に関する対応は年間延べ85件（前年度67件）の相談に対応した。あんしん泊江と連携を取りながら対応した。成年後見制度の需要の高ま

		りに伴い、後見人等を含めたチーム支援が必要なケースも増加している。制度に繋げることがゴールではなく、その後の連携、継続支援の強化も必要となっている。
4	目標	＜包括的・継続的ケアマネジメント支援事業＞ 地域の介護支援専門員が、包括的・継続的なケアマネジメントを実践できるようスキルアップを支援する
	評価	介護支援専門員からの相談は年間延べ577件（前年度479件）と増加している。介護保険サービス以外の課題を抱えた困難なケースが増えていることが伺える。後方支援として、支援方針の検討、助言、同行訪問等を行った。 介護支援専門員向けのステップアップ講座はヤングケアラーをテーマに動画配信方式で年2回行った。 事例検討会は集合形式で「延命治療を中止したいと家族が希望するケース」というテーマで実施し、個別ケア会議へと発展させることができた。
5	目標	＜認知症総合支援事業＞ 認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、認知症に理解ある地域づくり等を目指す
	評価	認知症連携会議、コーディネーター連絡会へ参加し、認知症施策についての協議を行った。 認知症サポーター養成講座を2回（参加者計46人）実施した。 認知症連携会議でのケース相談、初期集中支援チームの実働はなかったが、もの忘れ相談会では3件の相談に同席し、その後の専門医への受診や介護保険サービスなど継続支援に繋がっている。 「介護をされているご家族のおしゃべり会」を毎月開催し、年2回のイベントも開催した。認知症カフェは、新型コロナ禍中は飲食を伴わない「つどい」として開催していたが、令和6年度よりカフェスタイルに戻し定期開催した。おしゃべり会と共に開催場所をふらっとなんぶでも行うことで新規参加の拡大を目指した。「本人ミーティング」も定期開催でき、当事者、ご家族それぞれの支援を展開できている。
6	目標	＜地域ケア会議推進事業＞ 専門職、民生委員、その他関係者による個別ケア会議を実施する。さらに個別ケア会議から抽出された地域課題が政策化につながるよう具体策を検討する
	評価	支援推進型個別ケア会議を7件実施した。医師、訪問看護事業所、訪問介護事業所、狛江・調布でACPを育む会の運営メンバーをアドバイザーとして招へいし、より専門性の高いアドバイスを受けることができた。 個別ケア会議から抽出された地域課題について、幹事会で課題整理を行い、その中で優先順位が高かった「高齢者が参加するイベントへの移動支援」と「高齢者世帯に連携用シート（キット）の配布」という課題を地域課題検討会議で検討することができた。 予防支援型個別ケア会議は実施できなかった。
7	目標	＜地域リハビリテーション活動支援事業＞ リハビリテーションの専門職が地域の介護予防への取り組みができるよう支援する
	評価	こまめ体操の普及啓発活動支援として、団体活動者向けの講座を実施した。 新たな取り組みとして、リハビリ職の個別相談会も実施した。医療機関と上手くいっていないことで生じている相談もあり、単発の相談会では病状を踏まえた指導の難しさがあった。一方で、相談会が包括と繋がるきっかけと

		なった方もいて、新たなアプローチの機会となった。
8	目標	＜ICTを活用した介護予防拠点整備事業＞ ICTを活用した介護予防拠点の運営維持管理を行う
	評価	ZOOM介護予防教室（ハイブリット開催）はテーマを絞り3回のみ実施した。ZOOM開催を減らすにあたり、動画視聴を活用して自宅で運動に取り組められることを目的としたシニア向けスマホ教室を開催した。
9	目標	＜介護予防・フレイル予防推進事業＞ 住民が主体となって運営する活動への支援と地域の実情に沿った介護予防を推進する
	評価	通所Bの団体は、参加者の減少により1団体が活動を終了し2団体となった。これまで活動地域に偏りがあったため、活動がなかった地域で令和7年4月開講に向けて新規団体の立ち上げ支援を行った。 コミュニティー紙「いこいの便り」は4年目となり、介護予防、生活支援の情報源として定着している。 自主グループの徒歩サークル「歩こう会」は高齢者運動推進員の活用により安定した活動となっている。園芸ボランティアサークルについては、認知症や身体機能の低下した方の参加も多く完全自主化への移行は難しい状況である。 生活支援に関連した地域課題としては、ゴミ出し、買い物支援、移動支援、見守り・交流の場の促進などが挙げられる。
10	目標	＜家族介護者の会運営＞ 家族介護者の会において、認知症支援についての情報提供やリラクゼーションとなるようなミニ講座を年2回開催する
	評価	「ユマニチュードを取り入れた認知症の方の対応のこつ」「アロマハンドトリートメントで癒されて」というテーマで認知症支援に関する情報提供と介護者のリラクゼーションを目的とした講座を実施した。
11	目標	＜家族介護教室＞ 現役の介護者やこれから介護に係る世代にも役立つ知識や技術を提供する
	評価	「家族ができる排泄介助と移動介助のやり方～実践編～」 「心地よい眠りのためにできること～快眠講座～」というテーマで介護に係る市民講座を実施した。 令和7年度からは、本事業は別団体へ事業委託することとなり包括での実施は終了となる。
12	目標	＜高齢者福祉サービス費等訪問調査事業＞ 市の一般給付事業に係る申請支援、適正な給付に向けたアセスメントを実施する
	評価	年間28件の申請支援、アセスメントを実施した（「(7) 高齢者福祉サービス等訪問調査」参照）。
13	目標	＜介護予防普及啓発事業＞ 介護予防の基本的な知識を普及啓発するための事業を実施する
	評価	新型コロナが5類へ移行となったため、会場参加者を新型コロナ以前と同様まで増やし、ハイブリット開催はテーマを絞って縮小した。 以前に参加されていた方の多くは要介護状態となり、新型コロナ禍を機に参加者が入れ替わっている。参加者は80歳前後の後期高齢者が多いため、前期高齢者への介護予防の普及啓発を目的とした連続講座も行った。 新たに「高齢者の保険事業と介護事業の一体的実施」事業へ参画し、地域の健康課題を介護予防へ反映できるような体制作りをした。

		「いこいの便り」をコミュニティソーシャルワーカーと協働で年4回発行し、介護予防に関する記事を掲載した。 地域のサロンに毎回参加し、こまめ体操の普及啓発を行った。
14	目標	<在宅医療・介護連携推進事業> 高齢者が安心して住みなれた地域で療養生活を送れるよう、医療と介護の切れ目のない連携体制を構築していく
	評価	63件（前年度92件）の相談に対応した。一般的な医療機関に関する相談、訪問診療、転院・入所に関する問い合わせが多かった。 訪問介護事業所にて感染性胃腸炎対応の勉強会を実施した。
15	目標	<多世代・多機能型交流拠点事業（ふらっとなんぶ）> 地域の高齢者の孤立防止、介護予防、活躍の場となるよう居場所や交流の場を提供する。訪問によるアウトリーチ機能も強化する
	評価	フリースペースの利用者は延べ1,663人（月平均135.58人）だった。前年度の、延べ726人（月平均60人）より利用者は増加し、地域の居場所として定着してきている。切手ボランティア、庭での野菜作り、雑草取り、夏場の水まき、メダカの餌やりやなどは外出の機会や役割を持てる場となっている。令和6年度より新たに「歌ってのどトレ」「折り紙教室」を開始した。「ネイルケア」「健康麻雀」は定番のイベントとなっている。 令和6年度から職員を1人増員し2人体制となり、アウトリーチ機能も強化することができた。前年度の85歳以上の独居世帯に追加して80歳以上のみ世帯も対象にアウトリーチを実施することができた。住基台帳を基に、包括支援センターなどの介入の履歴がある方及び前年度に同居であることを確認した世帯を除いた487件（延べ612件）に訪問し、介護保険申請や定期的な見守りに繋がるなどの成果が得られている（「(9) ふらっとなんぶアウトリーチ実績」参照）。見守りを要する高齢者については地域包括支援センター、社協などの他、民生委員とも連携を取ることで、より地域のネットワークを強化することができている。戸建てが多く昔ながらの道も多い地域の特性から、移動距離を要し効率化が図られない状況である。 ギャラリースペースでは、令和6年度より新たに色鉛筆や水彩による絵画、荷造りテープで作るバッグなどを展示した。作者の年齢は30代から90代と幅広くなっている。展示された作品を実際に作りたいとの要望からバッグ作りのワークショップを開催した。ふらフェスでは手芸作品などを展示販売し、出展者のやりがいにも繋がった。 介護予防に関する取り組みとしては、サテライト会場を含む介護予防教室19回、ふらっとウォーキング12回（7月及び2月は歩行解析）を実施した。腹筋や口腔や喉周辺の筋力維持を目的とした「のどトレ」は人気のプログラムとなっている。ふらフェスでは体力測定や血管年齢の計測、栄養士による相談も実施でき、身近な介護予防の場として周知されてきている。

(1) 相談件数

(延べ件数 単位: 件)

年度	新規	継続	合計	所属内訳		
				自社	委託	その他
令和6年度	363	8,874	9,237	4,053	110	5,074
令和5年度	363	9,139	9,502	4,172	65	5,265
令和4年度	353	7,642	7,995	3,871	70	4,054
令和3年度	248	5,273	5,521	2,854	46	2,621
令和2年度	—	—	5,895	—	—	—

(2) 相談形態

(延べ件数 単位：件)

形 態	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
電 話	4,977	5,302	4,569	3,348	3,817
来 所	431	487	363	300	238
訪 問	1,805	1,893	1,605	1,111	1,078
会 議	353	312	264	154	158
文 書	244	181	133	160	81
F A X	374	393	384	198	185
メール	201	239	171	65	81
その他	852	695	506	185	257
合 計	9,237	9,502	7,995	5,521	5,597

(3) 介護度

(延べ件数 単位：件)

介護度	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
支援 1	1,382	1,804	1,492	1,073	—
支援 2	2,546	2,419	2,150	1,689	—
要介護 1	881	1,055	779	431	—
要介護 2	669	622	368	231	—
要介護 3	370	356	106	94	—
要介護 4	258	290	136	154	—
要介護 5	204	111	84	67	—
非該当	5	7	4	4	—
事業対象者	400	398	503	314	—
未申請	940	986	896	689	—
申請中	1,459	1,272	1,403	694	—
不 明	123	182	74	81	—
合 計	9,237	9,502	7,995	5,521	—

(4) 年齢

(延べ件数 単位：件)

年齢 (歳)	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
64 以下	260	525	289	249	100
65～69	393	279	346	162	178
70～74	770	999	788	510	526
75～79	1,241	1,178	1,111	756	1,069
80～84	2,254	2,156	2,143	1,542	1,567
85～89	2,514	2,864	2,198	1,500	1,490
90 以上	1,756	1,437	1,069	749	934
不 明	49	64	51	53	31
合 計	9,237	9,502	7,995	5,521	5,895

(5) 相談者

(延べ件数 単位：件)

相談者	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
本人	3,814	3,999	3,278	2,576	2,485
配偶者	390	509	408	281	315

子	923	970	903	592	672
子の配偶者	104	96	121	75	86
兄妹姉妹	41	45	34	39	46
孫	14	6	7	1	2
その他家族	54	79	59	50	61
知人	22	22	31	26	24
市役所	668	615	591	244	310
保健所	5	8	0	1	3
警察	16	19	8	7	4
消防	1	1	0	1	0
民生委員	28	43	35	33	18
地域住民	10	11	25	12	9
医療機関	526	588	471	263	392
ケアマネ	970	857	668	439	586
サービス事業者	1,329	1,366	1,124	698	711
匿名	0	1	0	0	0
社会福祉協議会	45	74	59	38	35
地域包括	20	39	31	31	36
あんしん狛江	39	17	11	8	3
ふらっとなんぶ	6	8	—	—	—
その他	212	129	131	106	97
合 計	9,237	9,502	7,995	5,521	5,895

(6) 相談内容 (延べ件数 単位：件)

年度	総合相談 支援事業	予防 プラン	権利養護事業	包括的・継続 的ケアマネジ メント事業	合計
6年度	4,120	3,983	577	577	9,257
5年度	4,269	4,023	483	479	9,254
4年度	3,631	3,722	354	261	7,968
3年度	1,029	3,029	153	302	4,513
2年度	924	2,990	265	321	4,500

(6) - 1 総合相談支援事業内容別前年度比増加率 (単位：件)

相談内容	6年度		5年度		4年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
介護の悩み	7	▲54%	15	50%	10
熱中症	0	—	2	—	0
申請代行（介護保険外）	19	58%	12	▲59%	29
申請代行（介護保険）	141	9%	129	▲23%	168
苦情対応	5	▲17%	6	▲1%	13
円滑なサービス利用の調整・支援	1,271	3%	1,229	14%	1,074
家族等に障害等あり多問題	190	19%	159	31%	121
ターミナル期の支援	77	▲48%	148	151%	59
退院における支援	365	▲2%	372	4%	356
認知症による生活障害	477	▲7%	508	93%	263

精神疾患による生活障害	183	▲27%	249	106%	121
経済的問題	278	51%	184	▲16%	220
サービス導入拒否	51	142%	21	▲5%	22
その他	2,190	1,752%	125	51%	83

(6) - 2 予防プラン作成数 ()内は委託数の再掲 (単位: 件)

年度	ケアプラン 作成数	新規	終 了				
			非該当	介護給付 へ移行	施設 入所	死去	その他
6年度	2,548(245)	111(19)	0(0)	48(3)	4(0)	1(0)	11(2)
5年度	2,430(216)	86(7)	0(0)	46(5)	1(0)	3(0)	13(0)
4年度	2,312(236)	73(9)	0(0)	47(4)	0(0)	1(0)	19(1)
3年度	2,379(262)	71(5)	0(0)	41(2)	4(0)	0(0)	15(1)
2年度	2,551(277)	49(4)	0(0)	50(5)	1(0)	3(1)	16(2)

(6) - 3 権利擁護事業相談内容別前年度比増加率 (単位: 件)

相談内容	6年度		5年度		4年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
地域権利擁護事業	6	—	0	—	2
任意後見・成年後見	85	27%	67	—	67
虐待(疑いを含む)	217	14%	191	8%	177
セルフネグレクト	53	152%	21	3%	16
消費者被害	5	▲75%	20	100%	10
その他	211	15%	184	130%	80

(6) - 4 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業相談内容別前年度比増加率 (単位: 件)

相談内容	6年度		5年度		4年度
	件数	前年度比	件数	前年度比	件数
同行訪問	43	65%	26	▲3%	27
サービス担当者会議への参加	40	122%	18	6%	17
ケアプランの検証	0	—	0	—	0
その他	767	28%	599	115%	278

(7) 高齢者福祉サービス費等訪問調査

(単位：件)

申請種別	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
高齢者救急代理通報システム事業(旧あんしん見守り事業)	7	6	10	3	13
高齢者居宅内ごみ出しサポート事業	1	0	2	0	2
高齢者自立支援住宅改修費給付事業(担当者外)	0	1	1	—	—
高齢者自立支援日常生活用具給付事業	9	6	16	—	—
認知症高齢者位置情報提供サービス事業	1	2	4	9	—
居宅介護住宅改修	10	13	8	—	—
合 計	28	28	41	12	15

(8) 申請代行(介護保険)

(単位：件)

申請種別	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
介護保険(要介護・要支援)認定申請書(新規・更新・変更)	432	386	416	333	301
介護(予防)サービス計画書・届出書	207	157	154	141	157
住宅改修	12	14	11	13	13
軽度者申請 福祉用具	10	5	9	7	8
情報提供申請書兼同意書	361	198	214	158	185
チェックリスト	10	13	21	5	4
合 計	1,032	773	825	657	668

(9) ふらっとなんぶ アウトリーチ実績

(単位：件)

年度	住基台帳上		訪問対象	延べ訪問回数	同居	新規申請	継続訪問	施設	逝去	転居	住所不明
	85歳以上 独居	80歳以上 高齢のみ									
6年度	626	326	487	612	100	10	59	19	13	4	1
5年度	454	—	132	183	52	3	3	11	3	1	2

9. 居宅介護支援事業所

1	目標	要介護状態にある高齢者等の生活を支援していくために、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを提供し、安定した事業所運営を図る
	評価	① 特定事業所加算Ⅱの算定を継続し、令和6年10月からは介護支援専門員1人を採用し7人体制で運営した。平均担当件数は26.7件となる。令和6年度は新規83件（令和5年度52件）を受けたが、終了も62件と多く平均担当数を押し下げる要因となった。 ② 夜間休日のオンコール体制を継続し、利用者及び家族の相談対応や緊急の支援調整などを行った。 ③ 週1回の定期ミーティングで利用者の状況を共有し、担当者不在の場合にも適切な対応をとることができている。 ④ 職員間でマネジメントの手順について差が生じないように、マニュアルの見直しを行ったが年度内に終わらなかったため、引き続き見直しを継続していく。 ⑤ 包括から相談のあった支援困難ケースも受け入れを行い、関係機関と連携を取りながら必要な支援を行った。 ⑥ 高齢者虐待に関する委員会、研修を実施し知識を共有した。 ⑦ 事業所間のデータ送信に取り組み、国のデータ連携システムの活用においては、狛江市内で唯一使用している事業所となっている。
2	目標	職員の資質向上及び人材育成に取り組む
	評価	① 地域包括主催のケアマネステップアップ研修や事例検討会に参加し、職員の資質向上に努めた。また、事例検討会では主任介護支援専門員がファシリテーターを務めた。その他、外部研修にも積極的に参加を実施した。 ② 介護支援専門員実務研修生については、令和7年2月に1人の受け入れを行い専門職の育成・指導を行った。 ③ 介護支援専門員1人が主任介護支援専門員の研修を修了した。来年度からは主任介護支援専門員が3人体制となる。
3	目標	地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域の関連団体との連携を強化していく
	評価	① 狛江市介護支援専門員連絡会に参加し、職能団体の運営に携わり、狛江市内の事業所間の連携に努めた。 ② 主任介護支援専門員の連絡会には2人が参加し、地域課題の抽出や事例検討会でのファシリテーターなど介護支援専門員の質の向上に協力した。 ③ 医療と介護の連携を図るため、MCSの活用や国のデータ連携を活用し事業所間のスムーズな情報共有を行った。 ④ 他法人との合同研修会については、6月に5法人合同で災害時のBCPをテーマに集合で研修会を実施することができた。来年度も同テーマで6月に研修を予定している。

(1) 居宅介護支援事業利用状況

① 加算対象（年間延べ件数）

（単位：件）

区分	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
初回	95	75	80	73	110
入院時連携Ⅰ	21	35	29	48	33
入院時連携Ⅱ	21	7	6	3	7
退院退所Ⅰ 1	5	7	3	14	13

退院退所Ⅰ 2	2	3	0	0	0
退院退所Ⅱ 1	0	1	5	7	15
退院退所Ⅱ 2	0	0	0	0	0
退院退所Ⅲ	0	0	1	0	0
通院時情報連携加算	7	12	1	5	0
小規模多機能型連携	0	0	0	0	0
中山間地加算	0	0	0	0	0
看小多機能連携	0	0	0	0	0
緊急時等カンファ	0	0	0	0	0
ターミナル加算	1	1	0	4	3
特定事業加算Ⅱ	2,246	2,351	2,169	2,244	2,053
特定事業加算Ⅲ	0	0	0	0	0
運営基準減算	0	0	0	0	0

② 認定調査件数 (単位：件)

年度	調査件数
令和6年度	31
令和5年度	19
令和4年度	26
令和3年度	1
令和2年度	1

③ 自事業所利用割合 (単位：%)

年度	※訪問介護	※通所介護	認知症通所介護	短期入所
令和6年度	64.5	50.8	94.9	48.3
令和5年度	58.6	47.2	55.2	55.1
令和4年度	52.6	47.0	71.7	56.3
令和3年度	44.8	46.7	62.3	48.7
令和2年度	37.0	45.7	54.2	48.9

注) ※は特定事業所集中減算対象(一定条件のもと80%超は減算)

④ 居宅介護支援事業 要介護の状況 (単位：件)

年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	1人当たり件数
令和6年度	809	751	404	160	122	2,246	26.7
令和5年度	791	701	497	218	144	2,351	32.7
令和4年度	749	700	377	235	108	2,169	30.1
令和3年度	769	691	299	357	128	2,244	31.2
令和2年度	789	574	248	326	119	2,056	28.5

【参考資料】決算の推移

① サービス活動収支

(単位：円)

事業	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
本部	▲210,000	▲215,000	▲195,000	▲170,000	▲35,000
介護老人福祉施設	32,704,249	41,298,295	35,773,260	41,189,905	40,663,728
短期入所生活介護事業	2,401,964	921,237	2,648,458	2,821,508	▲1,381,927
通所介護事業	14,629,811	▲1,425,967	▲6,187,243	▲7,697,203	▲8,074,417
認知症対応通所介護事業	7,925,246	1,745,670	▲1,561,786	▲2,371,134	▲5,349,382
訪問介護事業	5,499,742	4,616,240	▲1,749,325	▲2,535,886	▲2,231,446
地域包括支援センター事業	305,706	10,027	518,576	4,382,955	3,234,640
介護予防支援事業	18,266	227,898	▲11,318	▲90,054	▲547,259
居宅介護支援事業	6,477,188	6,590,760	4,155,700	8,043,366	5,003,953
合 計	69,752,172	53,769,157	33,391,322	43,573,457	31,282,890

② サービス活動外収支

(単位：円)

事業	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
本部	2	9	344	88	247
介護老人福祉施設	12,365,014	5,734,247	4,725,304	4,425,609	4,084,719
短期入所生活介護事業	163,128	171,975	166,412	145,139	148,279
通所介護事業	1,327,937	928,182	535,463	791,606	431,952
認知症対応通所介護事業	332,807	217,816	116,830	176,502	88,224
訪問介護事業	42,424	60,558	36,292	35,706	33,590
地域包括支援センター事業	72,537	86,018	68,857	72,551	52,142
介護予防支援事業	13,204	14,733	11,683	13,500	14,707
居宅介護支援事業	34,439	27,659	43,549	22,432	21,366
合 計	14,351,492	7,241,197	5,704,734	5,683,133	4,875,226

③ 計上収支合計 (①+②)

(単位：円)

事業	6年度	5年度	4年度	3年度	2年度
本部	▲209,998	▲214,991	▲194,656	▲169,912	▲34,753
介護老人福祉施設	45,069,263	47,032,542	40,498,564	45,615,514	44,748,447
短期入所生活介護事業	2,565,092	1,093,212	2,814,870	2,966,647	▲1,233,648
通所介護事業	15,957,748	▲497,785	▲5,651,780	▲6,905,597	▲7,642,465
認知症対応通所介護事業	8,258,053	1,963,486	▲1,444,956	▲2,194,632	▲5,261,158
訪問介護事業	5,542,166	4,676,789	▲1,713,033	▲2,500,180	▲2,197,856
地域包括支援センター事業	378,243	96,042	587,433	4,455,506	3,286,782
介護予防支援事業	31,470	242,631	365	▲76,554	▲532,552
居宅介護支援事業	6,511,627	6,618,419	4,199,249	8,065,798	5,025,319
合 計	84,103,664	61,010,354	39,096,056	49,256,590	36,158,116

④ 人件費

(単位：円)

年 度	人件費	前年度比増減
令和6年度	497,514,702	30,742,542
令和5年度	466,772,160	6,480,348
令和4年度	460,291,812	9,444,973
令和3年度	450,846,839	5,552,489
令和2年度	445,294,350	9,897,961

⑤ 施設・施設整備等積立資金の推移

(単位：円)

年 度	前期末残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
令和6年度	268,990,000	85,800,000	0	354,790,000
令和5年度	205,020,000	69,690,000	5,720,000	268,990,000
令和4年度	195,169,600	51,150,000	41,299,600	205,020,000
令和3年度	170,479,600	45,790,000	21,100,000	195,169,600
令和2年度	133,389,600	37,090,000	0	170,479,600

⑥ 現況報告書に記載する「社会福祉充実残高」(原則計算)

年 度	社会福祉充実残高(円)
令和6年度	▲427,470,000
令和5年度	▲469,470,000
令和4年度	▲487,180,000
令和3年度	▲568,110,000
令和2年度	▲496,990,000